人権だより
ゆらい処
久志小中学校
NO.2

みつめよう　つなげよう　みんなの心
～児童生徒が自分らしく生きるための人権教育～

「世界人権宣言」の学習

総合的な学習の時間では，５年生が「世界人権宣言」の学習をしました。宣言が採択されるまでの歴史的な背景や条文の内容を学び，「すべての人が幸せに生きるための権利『人権』」について，学習を深めることができました。そして，自分たちの日常生活と重ねて，５年１組「人権宣言」を考える活動に取り組み，みんなが幸せに生活するための条文を作ることができました。

「子どもたちの呼び方について」

現在，久志小中学校では，先生方が子どもたちを呼ぶときには，「～さん」と呼ぶようにしています。しかし，私たち大人が小さかった頃は，男子は「～くん」，女子は「～さん」と区別をつけていました。では，正しい呼び方があるのでしょうか。そこで，「くん」「さん」「ちゃん」の呼び方について調べてみました。

１　「くん」

元々は吉田松陰が松下村塾において，身分の差がなく対等な立場で議論ができるように統一した敬称として使い始めたのが始まりだそうです。ただし，この時の対象はあくまでも男性です。現在でも，国会議員は，「～くん」と呼ばれています。それは，初代内閣総理大臣である伊藤博文が，松下村塾の出身者であることから始まったということのようです。

２　「さん」

最も一般的な敬称であり，どの相手でも，どの場面でも用いることに違和感が少ない敬称です。一定の距離がある相手や，初対面で自分との関係が量れない相手にも付けことができます。

「父さん」「母さん」「社長さん」「お巡りさん」「ラーメン屋さん」などがあります。

３　「ちゃん」

小さい子どもなどに，より愛情を込めて用いることが多いですが，同輩や年長者に用いられることもある一般的な敬称です。「～さん」よりも距離が近いので，親しくなりたい相手に対して使うこともあります。

「父ちゃん」「母ちゃん」「叔父ちゃん」「叔母ちゃん」などがあります。

学校などで男子に「くん（君）」，女子に「さん」をつけて区別することが一般的に用いられていましたが，近年，一般的な「さん」に比べて「くん」を使用する相手が対等以下に限定されるという理由で，男女平等の観点から，この用法は適切でないという意見もあり，誰に対しいても「さん」をつけることが奨励されつつあるのです。

これらのことから考えると，男女の区別をつけることなく，「くん」でも「さん」でも統一すればいいのではないでしょうか。ただ，「くん」だと男子のイメージが強いと感じる人が多いので，「さん」のほうが，よりいいのではないでしょうか。久志小中学校では，今後も「～さん」で呼びたいと思います。